

2014年5月26日

緊急レポート!!

クーデターに関する集会と外出禁止令について（5月26日）

インターリスクアジアタイランド

はじめに

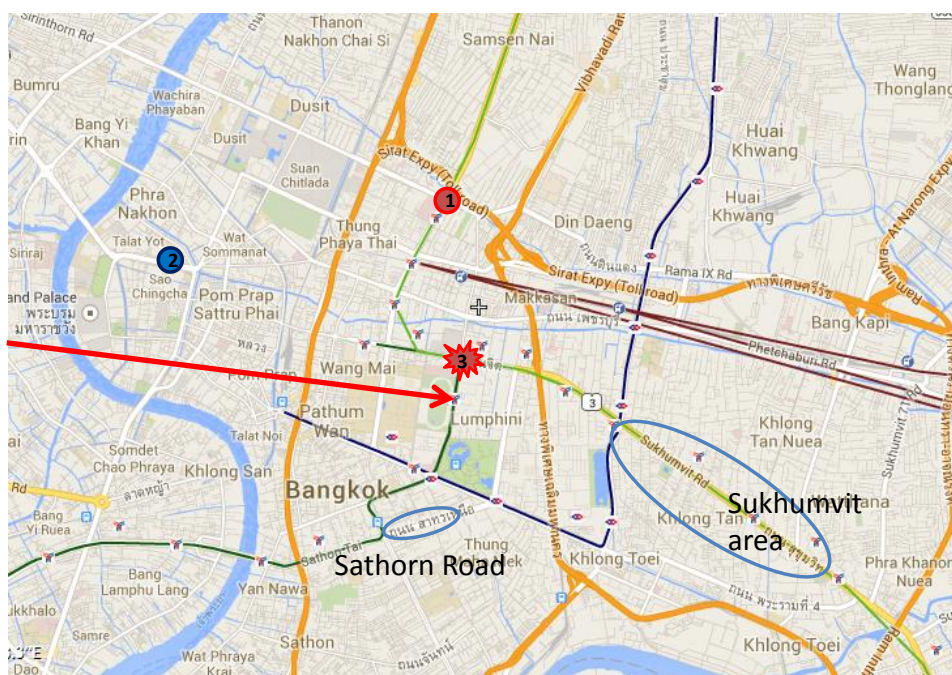
タイ軍部がクーデターを宣言して初めての週末(24日、25日)、バンコク市内でクーデターに関する集会が複数発生しました。PDRC と UDD の直接的接触は無くなったものの、軍のクーデターに対する支持と反発が混在し、人々を動かしているということがわかりました。また、軍の指示の中で市民生活および経済活動に影響が大きいものとして夜間外出禁止令が挙げられます。本レポートでは、先週末に発生したデモの概要と外出禁止令に関する情報収集の結果を取り纏めてご案内致します。

反クーデター集会の発生場所

下記の地図上、①が Victory monument、②が Democratic monument、そして③が Ratchaprasong Junction です。日本人が多い Sukhumvit 地区および Sathorn 地区に比較的近いことが分かります。①では24日に、また③では25日にそれぞれ反クーデターを主張する集会が行われました。集会参加者の正確な人数は不明ですが、③での集会時には BTS のチットロム駅とプルンチット駅が封鎖され乗降できない状態となりました。また、ラマ1世道路を軍隊が封鎖する状況になり周囲は騒然となりました。一方②ではクーデターを支持する集会が開かれました。当然ながら軍関係者との衝突はなく平和的な集会となりました。

現在夜間外出禁止令が発令されているため、終了後、参加者は全員帰宅します。つまり、夜間は待機する拠点はありませぬので、ネットワークを使用した何らかの連絡方法で場所の通知がなされているものと考えられます。

当社では、UDD リーダーのフェイスブック上で「25日 Ratchaprasong のマクドナルドに集合」等の掲載が24日になされたことを確認しており、一つの通知手段となっている可能性があります。



ラマ1世道路を封鎖する軍隊(25日弊社撮影)

外出禁止令

22日、軍が外出禁止令を宣言した際に、その適用除外について下記アナウンスを行っています。(下図:公表文章参照)

外出禁止令の適用除外の人

- 1、規制された時間内にタイに到着した、または海外へ渡航する方
- 2、工場や病院、航空機関などの夜間勤務職員
- 3、輸送会社の輸送車両
- 4、持病や急患で病院にいかなければならない方
- 5、正当な理由があり、近くの軍、警察に了承を得た方

また、本日26日、タイ日本大使館より下記情報が公開されています。

「出入国等の空港利用者、工場、病院、航空関、連事業等の内、外出禁止令の時間帯に勤務する者、また、陸・海・空の各物流・輸送業者については、外出禁止令の対象外である。なお、当局より問われる場合は、その旨を説明する必要がある。」(日本大使館緊急メールより抜粋)

上記情報に基づき、情報収集を行った結果を下記に取り纏めました。



外出禁止令適用除外が記載された公表文章

項目	状況
スワナンプーム空港	夜間に到着客を迎えに空港に行く、あるいは空港へ出発客を送る場合は、バンコクに戻る車を対象に、空港2階3番ドア、もしくは4階3.5ドア付近のカウンターで申し出ること必要書類が発行されるとのことです。
工場	複数の企業にて夜間操業が実施されています。タイ政府 Department of Industrial works に確認したところ、上記適用除外条項に基づき問題ないとの回答がありました。しかし、具体的な申請の要否等については下記 NCPO Information Contact に連絡して確認するようコメントがありました。 【NCPO Information Contact: 094-1286273~9, 094-2349312~4】
港湾業務	港湾業務は問題なく行われており、輸出入車両に関しても特例が認められているとのことです。これも上記適用除外条項に基づくものと考えられます。
輸送トラック	夜間移動は可能ですが、取締地点では資料提示の必要が有るとの情報があります。提示を求められるのは、貨物運送に従事していることを示す資料およびIDカード・パスポートである可能性が高いとのことです。上記適用除外条項に基づき許可されるものと考えられます。
病院	確認した限りでは全ての病院が通常通り営業しているとのことです。これも上記適用除外条項に基づくものと考えられます。
夜間の検問	先週金曜日 22:30 に当社スタッフが Lama III Road で軍のチェックを受けた際には、車両内部の確認のみが行われ、ID等のチェックはなかったとのことです。理由を聞かれた際に、交通渋滞で帰宅が遅くなった旨回答したところ通行の許可がおりたとのことです。

今後について

クーデターに関する集会在今後も発生する可能性があることについては理解しておく必要があります。但し、フェイスブック等の情報は軍部も把握しているものと考えられることから、軍と集会参加者との間で暴力的な衝突が長期にわたり拡大していく可能性は低いと考えられます。しかし、一般人が常時集会の予測をすることは不可能であるため、突然周囲で軍と集会参加者との間で衝突が発生する可能性は残ります。

従って道路の移動時は出来る限り車両を使用することをお勧めします。また、軍隊を見かけたら見学などは行わずに直ちにその場から遠ざかることが重要です。

夜間外出禁止令については、経済活動が目的の夜間作業については、前述の NCPO (National Council for Peace and Order) に直接連絡されることをお勧めします。

事情を説明すれば、夜間操業が認められる可能性があります。

万一、外出禁止時間に軍のチェックを受けた場合は、交通渋滞で遅くなった旨を回答することが1つの対策であろうと考えます。ID をチェックされる可能性もありますので、パスポートもしくはパスポートのコピーを常時携帯されること、および出来る限り禁止時間になる前に帰宅されることをお勧めします。

社有車をご利用の方はドライバーの帰宅時間が午後 10 時となりますので、交通渋滞を考慮し仕事、飲食を切り上げる時間を決定されることをお勧めします。

参考

クーデターに関する集会

<http://www.bangkokpost.com/news/coup/411707/bst-stations-reopen>

外出禁止令 <http://news.sanook.com/gallery/gallery/1596653/410893/#view>

スワンブーム空港

<http://suvarnabhumiairport.com/en/news/253/%E0%B8%95%E0%B8%B2%E0%B8%A1%E0%B8%97%E0%B8%B5%E0%B9%88%E0%B8%82%E0%B8%93%E0%B8%B0%E0%B8%99%E0%B8%B5%E0%B9%89%E0%B9%84%E0%B8%94%E0%B9%89%E0%B8%A1%E0%B8%B5%E0%B8%81%E0%B8%B2%E0%B8%A3%E0%B8%9B%E0%B8%A3%E0%B8%B0%E0%B8%81%E0%B8%B2%E0%B8%A8%E0%B9%80%E0%B8%84%E0%B8%AD%E0%B8%A3%E0%B9%8C%E0%B8%9F%E0%B8%B4%E0%B8%A7%E0%B8%AB%E0%B9%89%E0%B8%B2%E0%B8%A1%E0%B8%A1%E0%B8%B4%E0%B9%83%E0%B8%AB%E0%B9%89%E0%B8%9A%E0%B8%B8%E0%B8%84%E0%B8%84%E0%B8%A5%E0%B9%83%E0%B8%94%E0%B8%AD%E0%B8%AD%E0%B8%81%E0%B8%99%E0%B8%AD%E0%B8%81%E0%B9%80%E0%B8%84%E0%B8%AB%E0%B8%B0%E0%B8%AA%E0%B8%96%E0%B8%B2%E0%B8%99-2200-0500-%E0%B8%99>

日本大使館緊急一斉メール

国軍による夜間外出禁止令に伴う注意喚起 (その2) (2014年5月26日現在)

本レポートは、マスコミ報道など公開されている情報やインタビュー、現地調査等に基づいて作成しております。また、本誌は、読者の方々および読者の方々が所属する組織のリスクマネジメントの取組みに役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

以上